



ご存知ですか？今、勧められている肺炎球菌ワクチン

2種類の肺炎球菌ワクチンPPSV23(ニューモバックス)
・PCV13(プレベナー)のお話です。

- * 65歳以上(シニア用)の肺炎球菌ワクチンPPSV23(ニューモバックス)の定期接種(公費助成負担)は、平成26年10月1日より開始されています。
- * 小児(乳児用)の肺炎球菌ワクチンPCV13(プレベナー)は平成25年11月より開始されています。

- 肺炎球菌ワクチン[PPSV23(ニューモバックス)]の対象は65歳以上の方に5年間隔で公費負担は1回のみ(平成31年3月で終了)です。今年度の対象の方の接種期間は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までとなります。
- 肺炎球菌ワクチン[PCV13(プレベナー)]は、ある種のリンパ球に直接作用して長期免疫の持続が期待され、小児のみならず65歳以上の方も任意接種ができるようになりました。

肺炎球菌ワクチンについてももう少し詳しくお話いたします。

肺炎は日本人の死因の第3位である主要な疾患であります。死亡数の95%以上を65歳以上が占めると報告されています。また、肺炎球菌感染症は頻度が高く、しかも重症化しやすく、65歳以上のシニアにおいては、肺炎球菌が肺炎の原因菌の第1位を占めています。

肺炎球菌ワクチン[PPSV23(ニューモバックス)]は、1988年に薬事承認されて以降、これまでの日本における65歳以上のシニアに対する接種による安全性、臨床効果、費用対効果等の評価から、2014年10月より定期接種が開始されることになりました。

肺炎球菌結合型ワクチン[PCV13(プレベナー)]は、2014年6月に65歳以上のシニアに適応が拡大されたことから、PCV13(プレベナー)を同対象年齢に対して、任意接種ワクチンとして接種することが可能になっています。上記2種類のワクチンの接種方法、間隔が大切ですので接種前にはご相談ください。

***【肺炎球菌の特徴とPCV13(プレベナー)および、PPSV23(ニューモバックス)の2種類のワクチンについて】**

肺炎球菌は、グラム陽性双球菌に分類される上気道の常在菌です。小児の20-40%、成人の5-10%が保菌しており、肺炎や髄膜炎などの重篤な感染症を引き起こします。莢膜(細胞壁の外層)の性質により94種類の血清型に分類され、そのうちの約30種類に病原性があるとされています。

*【さいごに】このワクチンの接種方法

日本では、2種類の肺炎球菌ワクチンの適切な接種方法が勧められています。現在は、PCV13(プレベナー)は1回のみ可能なワクチン(任意接種)です。PPSV23(ニューモバックス)は定期接種(1回のみ公費負担)制度を受けることができます。

○PPSV23(ニューモバックス)を以前に受けたことがある既接種者(シニア)の方で
今後、PCV13(プレベナー)および、PPSV23(ニューモバックス)の追加接種を
お考えの方

○はじめて肺炎球菌ワクチンを受けられるシニアの方で最初にPCV13(プレベナー)を
接種後、半年から4年以内にPPSV23(ニューモバックス)の定期接種をお考えの方

○その他、肺炎球菌ワクチンについてよく分からない方

当院のホームページでも肺炎球菌ワクチンのご案内させていただいていますが、
ご不明な点がありましたらお気軽にご相談ください。

*【小児科より】

肺炎球菌は小児の細菌性髄膜炎の20%を占めるといわれる病原菌です。細菌性髄膜炎は、早期発見が難しく、治療も困難なことが多く、命を落としたり重い後遺症が残ることがある病気です。細菌性髄膜炎にかかった小児のうち、約半数が免疫力の弱い0歳児のため、早めの予防接種が望まれます。

小児の肺炎球菌ワクチン〔PCV13(プレベナー)〕の標準的な接種スケジュール

初回接種として生後2か月から接種を開始して、27日以上の間隔をおいて3回接種します。
その後、追加接種を初回接種3回目後60日以上の間隔をあけて1回行います。

当院では、小児の肺炎球菌ワクチンは平成23年9月よりPCV13(プレベナー)を開始しています。